

# 令和4年度 南河内在宅医療懇話会 議事概要

日 時：令和4年9月29日（木）午後2時～午後3時30分

開催場所：レインボーホール（富田林市市民会館）1階 中ホール

出席委員：29名(委員定数34名)

坂口隆啓委員、森川栄司委員代理、木下裕介委員、倉岡哲郎委員、藤本恭平委員、芝元啓治委員代理、小杉博基委員、南和延委員、伊藤雅仁委員、東浦利明委員、馬場一郎委員、南貞子委員、船多大委員、磯野元三委員、大友友希委員、米澤優一委員、村上肇委員、松田保四委員、村井真由美委員、芋生和代委員、時岡奈穂子委員、白本鏡子委員、松田和之委員代理、中條睦美委員、尾久聖子委員、澤多良明委員、坂田千絵委員、阪井康子委員、田村尚子委員

■議題1 令和4年度 在宅医療にかかる取組について

■議題2 圏域（市町村）別データ＜南河内二次医療圏＞

■議題3 在宅医療に関する実態調査 集計結果まとめ（報告）

資料に基づき、大阪府保健医療企画課から説明

【資料1】 令和4年度 在宅医療にかかる取組について

～第8次医療計画に向けた国の検討状況を踏まえた府の取組について～

【資料2】 圏域（市町村）別データ＜南河内二次医療圏＞

【資料3-1】 在宅医療に関する実態調査(医科診療所)【府域版】

【資料3-2】 在宅医療に関する実態調査(医科診療所)【南河内二次医療圏】

【資料3-3】 在宅医療に関する実態調査(地区医師会)【府域版】

【資料3-4】 在宅医療に関する実態調査(地区医師会)【南河内二次医療圏】

(質問、意見等) 特になし

■議題4 地域の訪問診療/往診の体制と地域の連携等について

～新型コロナウイルス感染症の経験から～（意見交換）

資料に基づき、富田林保健所（事務局）から説明

【資料4】 地域の訪問診療/往診の体制と地域の連携等について

(意見等)

○訪問診療の数を確保するためにも、診療所の世代交代の時に、診療の形態が変わり、訪問診療の継続ができない場合があるので、引き続き対応をお願いしている。

○なかなか進まないのが診診連携で、医師会でシステムをつくる、チームをつくる、また、隣の診療所と助け合うのが理想である。

○在宅医療を推進するために、訪問看護の充実が必要であるが、大阪府は、訪問看護の数が多いので、地域で活かすことが大事である。地域で交流会や勉強会などを行い、お互いにスキルアップする機会を作ったり、診療医師から訪問看護への指示がうまく伝わるよう SNS も活用して連携強化を図るなどをしてはどうか。

○病院のバックアップ（病診連携）も大切で南河内は取り組んでいる地域もある。

河内長野市ではブルーカードを一部の在宅患者が利用している。

○地域での緩和ケア病棟が現在1カ所あり、今後1カ所増える予定

○訪問診療のレセプト申請の複雑さが訪問診療の取組の妨げになっているため医師会で勉強会などに取り組んではどうか。

- 医療と介護等、地域で連携を図るには、まずは、交流会、勉強会でそれぞれお互いの顔を知り合うのが先ではないか。Zoomにおける交流会などでも構わない。
  - 医療従事者の連携において利用頻度が多いのは、電話やファックス。通信ツールについては、緊急性が高い時は電話・ファックス、残薬の共有や患者の発言の共有には医療介護コミュニケーションツール（以下ICT）、というように使い分けが必要と考える。
  - ICTは使ってわかるものなので、まず、パイオニア的に先駆者として活用する人をエリアも決めて使い、そこから普及してはどうか。藤井寺市は「いけネット」の場を活用して、多職種の交流は出来ているが、ICTの普及には至っていないので、今後、進めていきたい。
- 会長) どの地区でも同じ課題がある。各市・地域が持ち帰って積極的に取り入れてほしい。

■議題5 南河内圏域高齢者施設等におけるACP普及の現状把握について

資料に基づき、富田林保健所（事務局）から説明

【資料5】 南河内圏域高齢者施設等におけるACP普及の現状把握について  
(意見等)

- ACPの啓発に関して、太子町では、令和2年度から河南町、千早赤阪村の3町村で、救急キットに入るサイズのもので『おぼえがきノート』を作成し、周知及び窓口での配布をしている。人生の最終段階で介護と医療について考える機会や、関係機関が本人・家族への支援のためツールとして作成している。エンディングノートもあるが、予算もあり、医療と介護に特化して作っている。医師会に監修してもらい医療の部分、延命の説明など分かりやすくしている。法的根拠はないので、もしもの時に何かを選択しないといけない場合に「本人の思いを書き込めるツール」、「家族支援者のためのツール」として説明している。

■議題6 地域医療介護総合確保基金事業(医療分)について

【資料6】 地域医療介護総合確保基金(医療分)について

【参考資料1】 地域医療介護総合確保基金事業(医療分)一覧

【参考資料2】 地域連携薬局等啓発資材「薬局の認定制度がスタートしました！」

資料に基づき、大阪府保健医療企画課から説明

(質問、意見等) 特になし

■その他

会長) コロナへの診療(往診)体制を整えるためにはどうしたらよいか。

(質問、意見等) 特になし

会長) 例えばチーム医療。クリニック、訪問看護の連携などで可能な取組について、それぞれの会に持ち帰って検討していただきたい。

大阪府) 今後のコロナの波に備えて、大阪府として、往診やオンライン診療の体制を増やしていく必要があると考えている。診療所や訪問看護、薬局等が組んで「こういうことをやっていこう」と思っているなど、それぞれで取り組んでいること、課題となっていることがあれば教えてほしい。

以上